

ヤマブドウ 冬場の作業について

1 はじめに

今年の冬は、現在のところ積雪量が少ない状況にありますが、昨年のように急な天候変化によって大雪になる場合もありますので、万全の備えでヤマブドウの植栽地管理を行ってください。

落葉後から2月上旬までの期間には、樹形を整えることや、結果母枝を確保するために剪定を実施します。

2 雪害対策

(1) 植栽木

植栽から2年以上経過したヤマブドウは、枝折れ等の雪害に遭いやすくなります。

春からずっと誘引のため新梢を縛った箇所では、ひもを枝から切り離します。まきひげがワイヤーにからみついている場合には、まきひげを切り離します。

(2) 垣根施設

積雪量が多くなると、下方に積もっている雪が沈み込み、ワイヤーが下方へ押されるため、支柱も引っ張られてたわむことがあります。場合によってはワイヤー自体が切断されることがあります。

ターンバックルを緩めてワイヤーをたるませて被害を予防します。

(3) 大雪になりつつある場合

雪の中に枝が埋もれてしまった時には、枝折れを防ぐために雪の上まで枝を掘り起こします。掘り起こしができない場合には、何箇所か雪に切れ込みを入れ、枝分かれしている部分へ雪の重みがかからないように雪の重さを分散させます。

(4) 枝折れした場合

枝折れの被害を受けてしまった場合には、殺菌剤を塗布するなどして裂開部分の癒合を促進させるほか、剪定を実施し枝に見合った結実量を確保します。

(5) ノネズミなどによる被害

積雪期間は、ノネズミが根元付近を食害しますので、容易に雪にもぐり込めな

いように、根元部分の周囲の雪を踏み固めて被害を予防します。

3 剪定について

幼木では枝を、移行相では樹形を整えることが目的ですが、成木では剪定して枝を切ることが重要です。

成木の冬期剪定は、樹勢の強い枝を強く剪定すると伸長生長が進み花芽の着生数が少なくなるので、勢いの強い枝は枝を長く残し、弱い枝は短く切ります。

なお、剪定の詳細は林業技術情報 18、19を参照してください。

強い枝は10芽程度、弱い枝は4芽程度残す。

古い枝を切って、新しい枝を残す。枯れている場合には少しずつ切り進み、生きている部分にたどり着くまで行う。(古い枝は新しい枝と比較すると白っぽくなっています)

枝どうしが重なったり、支線とぶつかるころは虫害を受けやすいため切り落とす。

晩腐病等病原菌の密度低下のため、巻きひげは切除し園地外に搬出する。

剪定中に害虫被害(新梢を食害するブドウスカシクロバ)が見られる場合には被害を受けた部位も切り落として搬出する。

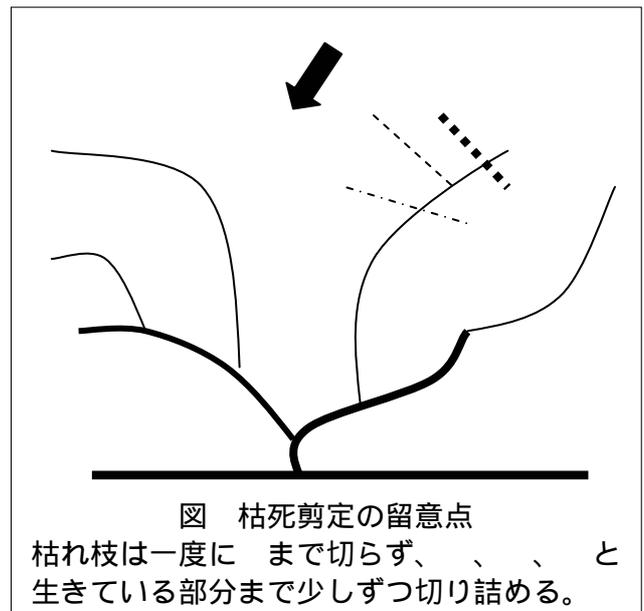


図 枯死剪定の留意点

枯れ枝は一度に まで切らず、 、 、 と生きている部分まで少しずつ切り詰める。

(担当 上席専門研究員 小原孝文、 専門技術員 伊東茂敏)

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11 TEL 019-698-1536
岩手県林業技術センター FAX 019-697-1410
ホームページアドレス <http://www.pref.iwate.jp/hp1017/>